

仕合わせ



第218号
令和2年. 5. 1
(毎月1日発行)

コロナウイルスに 負けない心

住職 谷川寛俊

猛威を奮っている新型コロナウイルスは、昨年末に発生が確認された。中国武漢市での集団発生において、

当初は他の動物から人間に感染したもので人から人への感染はないと考えられていました。その後人から人への感染が確認され、またたく間に中国大陸を越えて全世界に拡散し、

パンデミック(世界的大流行)となつて現在に至っています。

それこそ、ここ数ヶ月間報道されない日はありません。このような深刻な状況の中で、あらためて思い起こされるのは760年前、日蓮聖人が時の執権・鎌倉幕府(北条時頼)に献上された『立正安国論(りっしょうあんこくろん)』冒頭の言葉であります。

『近年より近日に至るまで、天変地天(てんぺんちよう)・飢饉(きき)

ん)・疫病(えきい)、あまねく天下に満ち、広く地上に蔓延(はびこ)る。牛馬巷(ちまた)に倒れ、骸骨(がいこつ)路(みち)に充(み)てり... (略)と。

当時の鎌倉の惨状が、今世界中に蔓延している疫病(病)コロナウイルスと重なって現前に立ち現れているかのように思われてなりません。

このコロナウイルスが蔓延する原因を仏教の教えに照らし合わせると「五濁(ごじよく)」という教えが浮かび上がってきます。

「五濁」とは

- ① 劫濁(こうじよく)
 - ② 煩惱濁(ぼんのうじよく)
 - ③ 衆生濁(しゅじようじよく)
 - ④ 見濁(けんじよく)
 - ⑤ 命濁(みじよく)
- ① 不幸な苦悩の現象が重なり起こる。
② 社会全体が迷いの煩惱に支配される。
③ 衆生濁(しゅじようじよく)
④ 見濁(けんじよく)
⑤ 命濁(みじよく)
- 以上5つに分類されています。そして、この5つが当てはまる所に、今回の様な疫病蔓延という苦悩が起こる

真成寺ホームページ

<https://bit.ly/2Gz55Mz>

編集・発行

玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX 0765-22-2268

携帯 080-3744-2523

こちらの番号でもお寺につながります。

ということが予言的に教えられている。今まさに、日本をはじめ世界中が、この「五濁」に汚染されているのではないかと思います。

感染に苦しむ人たちの治療に身を惜しまず、命懸けで努力されている医療関係者に世界中の人々から称賛の言葉が寄せられていることは、誠に素晴らしい事であり、心から拍手を贈りたいと思います。

それにしても連日報道されている中で、いつも思うことは「今日は何人、今日も何人」と感染者の人数ばかり耳にしますが、これではマイナスのイメージしかありません。できれば「今日は何人が退院しました。」と報告してもいいれば、少しは安心するのではないかと思います。

また、コロナウイルス感染予防に對して、専門家は「他人にうつさないこと」を重要視していますが、報道では「自分が感染しないこと」に重点が置

かれていますようにも思えます。だから若い人は「自分は若いから感染しても大丈夫」。「私は健康だからたぶん大丈夫」と言つて避けなければならぬ「三密(さんみつ)」を繰り返す人達がいいます。

健康な人は大丈夫かもしれないが、その人からウイルスをうつされた人は、命を落とすかもしれない。健康な人ほど、人にうつすことを考えていません。身近にいる大切な人のことを考えて、もっと自覚してもらいたいと思います。どうかもう一度真剣に考える必要があると思います。そして『私達は皆さんを信じています。ウイルスを他の人にうつさないことを、皆でやりませんか』

今、報道に求められているのは、この姿勢なのではないかと強く思います。

